

報道関係者各位

令和6年1月19日

## 持続可能な地域医療を考える会の概要（第3回、第4回）について

第3回及び第4回「持続可能な地域医療を考える会」の概要をお知らせします。

### 1. 第3回持続可能な地域医療を考える会の概要

日時 令和5年11月6日（月）午後7時35分～午後9時35分

場所 舞鶴市役所 中会議室

協議事項 救急医療について

### 2. 第4回持続可能な地域医療を考える会の概要

日時 令和5年12月15日（金）午後7時30分～午後9時10分

場所 舞鶴市役所 中会議室

協議事項 災害時医療について

### 3. 今後の予定

1月21日（日） 地域医療シンポジウム（於：舞鶴市商工観光センター）



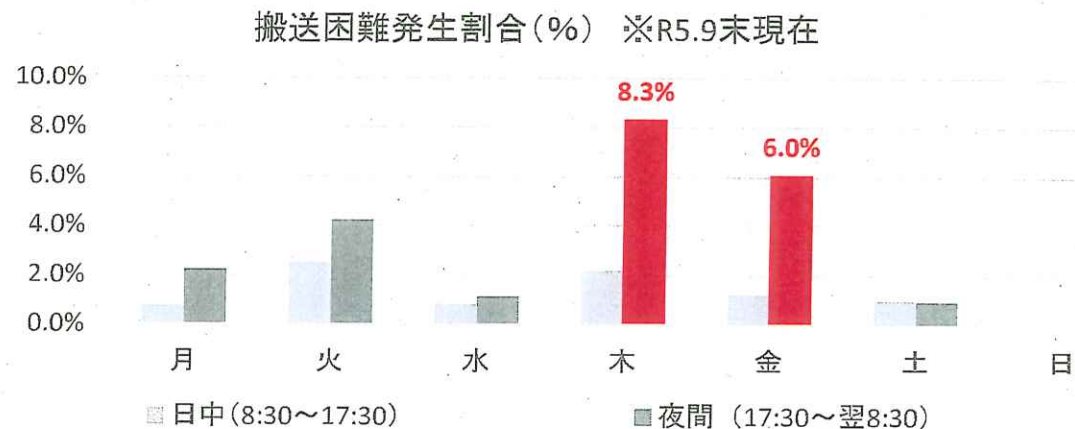
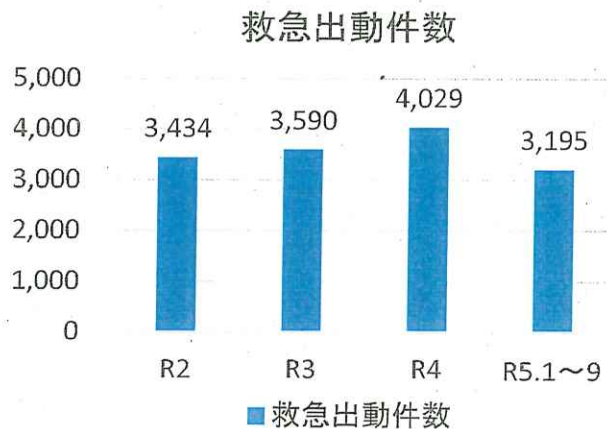
## 第3回「救急医療」(令和5年11月6日)

### 1. 参加者

舞鶴市長		鴨田	秋津
舞鶴医療センター 院長		法里	高
舞鶴共済病院 病院長		沖原	宏治
舞鶴赤十字病院 院長		片山	義敬
舞鶴市民病院 病院長		井上	重洋
舞鶴医師会 会長		隅山	充樹

### 2. 概要

- 市内医療機関での收容率は96~97%と高い状況にあるが、1年を通した救急搬送実績のうち、救急搬送困難事案(医療機関への照会回数4回以上かつ現場滞在時間30分以上)は増加傾向にある。中でも木曜日、金曜日の夜間に生じる割合が高い。
- 月曜日と水曜日に内科医が当直対応している病院を確認したため、残る病院で救急搬送困難事案の多い曜日に内科医を配置することを検討したが、夜間の対応については、集中治療室(ICU)や循環器疾患集中治療室(CCU)、新生児集中治療室(NICU)、脳卒中集中治療室(SCU)など、重症患者に備える体制整備を優先していることに加え、それぞれの診療科においても、手術スケジュールなどの事情も考慮されたうえでの配置になっており、曜日を限定して新たに内科医を配置することや、新たな調整を行うことは容易に行える状況ではない。
- 今後は、救急搬送実績を関係機関で共有しながら、搬送受け入れを断っているケースを検証するなど、見直しを図れる点がないか検討を重ねる。
- また、救急搬送現場では救急隊が適切に状態を把握し、状態を医療機関に適切に伝えられるよう努め、市は、医療資源は無限ではないことを踏まえて、病院の診察時間外においては重症患者への対応を優先するため、症状が軽症の場合は電話相談や通常の診察時間内での早めの受診を心掛けるといった周知・啓発に努める。



### 第3回持続可能な地域医療を考える会 要録

【日 時】令和5年11月6日(月) 19:35～21:35

【場 所】市役所別館5階 中会議室

【出席者】舞鶴医療センター：法里院長、井上統括診療部長、矢野事務部長

舞鶴共済病院：沖原病院長、糸川副院長、福田事務部長

舞鶴赤十字病院：片山院長、米山副院長、西田事務部長

舞鶴医師会：隅山会長、田中副会長、藤崎事務長

市立舞鶴市民病院：井上病院長、坂根管理部長

舞鶴市：鴨田市長、福田副市長、馬場健康・子ども部長、小路消防次長、  
片倉救急救助課長

事務局：霜山室長、高嶋課長、水嶋主査、東山

#### 【内 容】

##### 1 開会

##### 2 市長挨拶

本日は、第3回持続可能な地域医療を考える会に、遅い時間帯にも関わらずお集まりをいただきましてありがとうございます。

また、10月29日には舞鶴市総合防災訓練を開催したところ、舞鶴医師会におかれましては、今回初めて参画いただき、隅山会長におかれましては、実際にトリアージや応急処置等を現場で実践いただき、病院長にも現場をご覧いただき、ありがとうございました。

本日のテーマは2部構成といたしまして、第1部には救急医療について、第2部では今後の進め方をテーマに議論をお世話になりたいと思っております。

まず、テーマ1の救急医療についてであります。5月31日に開催しました、第1回の会議におきましても、救急は喫緊の課題であるということが挙げられました。その後、7月4日には救急を担当される先生方が一堂に会して、現状把握などに努めるとともに、その後、各病院間で夜間の当直表を共有されたところでもあります。今日は救急医療部会と兼ねる形で部会の先生方にもご参加いただいている中で、この間の救急医療の現状をお示しして、いかに搬送困難事案を減らしていくかについてご意見をいただきたいと思いますと思っております。

この後、事務局から説明させますが、搬送困難事案が増加傾向にあるということは、救急車を呼んでも、搬送先が決まらない不安な時間が存在しているということで、その時間はご本人やその家族にとっていつも以上に長く、計り知れない不安を感じられるものと認識をしております。市といたしましても、そうした方々を一人でも少なくしていくための努力をしていきたいと考えております。

申すまでもなく、地域医療は、本日お集まりの先生方を初め、医療従事者の

皆さんの献身的なご尽力によって支えられているところであり、人手不足に直面しながらも、救急医療については市内收容率が高い数値で推移を示していることは承知しているところであり、皆様のご尽力に改めて感謝を申し上げますところでもあります。

本日は、この間の救急医療の現状もお示しする中で、私達がどのように連携をしていくべきなのか、また、市民の皆さんにご理解いただくことなどについて議論をしたいと考えておりますので、どうか忌憚のないご意見を寄せていただくことをお願い申し上げまして、冒頭の挨拶に代えさせていただきます。本日は、よろしくお願いたします。

### 3 会議の概要

第3回会議は2部制とし、第1部は救急医療部会を兼ねて、救急医療をテーマに、第2部は考える会の中間報告等についての議論を行った。

#### (1) 第1部「救急医療について」

救急医療に関して、近年市内医療機関での收容率が96%~97%と高い状況にあるが、1年を通した救急搬送実績のうち、搬送困難事案(医療機関への照会回数4回以上かつ現場滞在時間30分以上)は増加傾向にあり、中でも木曜日・金曜日の夜間に多く生じている現状を確認した。

月曜日と水曜日の夜間は内科医が当直対応している病院があることを確認したため、残る病院で困難事案の多い木曜日に内科医の配置を検討したが、夜間の対応については、集中治療室(ICU)や循環器疾患集中治療室(CCU)、新生児集中治療室(NICU)、脳卒中集中治療室(SCU)など、重症患者に備える体制整備を優先していることに加えて、それぞれの診療科においても手術スケジュールなどの事情も考慮されたうえでの配置になっており、曜日を限定して新たに内科医を配置することや、新たな調整を行うことは容易に行える状況ではないことから、今後救急搬送実績を共有し、受け入れを断っているケースを検証するなど、見直しを図れる点がないか検討することとした。

また、救急搬送現場においては、搬送人員の7割が高齢者で、患者自身が具体的に自身の状態を説明できないケースも多く見受けられることから、救急隊が適切に状態を把握し、医療機関に伝えられるよう努めること、そして、医療資源は無限ではないことを踏まえ、市は、市民に対し、病院の診察時間外においては重症患者への対応を優先するため、症状が軽症の場合は電話相談や通常の診察時間内での早めの受診を心掛けるといった周知・啓発に努めることとした。

これらの確認事項を踏まえつつ、今後は救急医療部会で検討・検証を行うこととした。

## (2) 第2部

諸報告を行った後、持続可能な地域医療を考える会の中間報告に関しては、これまでどのような議論を行ってきたのかを中間報告として伝えるとともに、パネルディスカッション方式で病院長や医師会長から医療現場の実態についても説明する機会にすることとし、これを「地域医療シンポジウム」と題して1月に開催することを決定し、第4回考える会において具体的な内容について協議することとした。

また、第2回考える会において意見が示された再編や統合といった中長期的議論に関しては、地域医療に対する市民の関心は大きいことから、必要なタイミングでの説明を行いながら議論を進めていく必要があること、加えて、地域医療構想を定める京都府、医師派遣元である大学、各病院本部などの考えもよく踏まえたうえで、慎重に調整を進めたいとする市の基本的な考え方を共有した。

以上

## 第4回「災害時医療について」

### 1. 参加者

舞鶴市長		鴨田	秋津
舞鶴医療センター 院長		法里	高
舞鶴共済病院 病院長		沖原	宏治
舞鶴赤十字病院 院長		片山	義敬
舞鶴市民病院 病院長		井上	重洋
舞鶴医師会 会長		隅山	充樹

### 2. 概要

災害時医療については、災害時に舞鶴市や関係機関が速やかに連携し、疾病者や負傷者の救護、受け入れに繋げていくため、地域の被災状況の共有はもとより、多数の疾病者、負傷者が生じた場合の受け入れ方法、さらに病院で診られなくなった場合の病院間連携など、連携体制の充実・強化を図っていくこととした。

この間持続可能な地域医療を考える会を通じて、市長、公的病院長、医師会長が率直な意見交換を行い、顔の見える関係が構築できたからこそ、将来、事務方も含めて人員が変わっても、強固な連携体制を維持・確保できる仕組みとして、災害時等における対応に関する覚書の締結に向け調整を進めることとした。

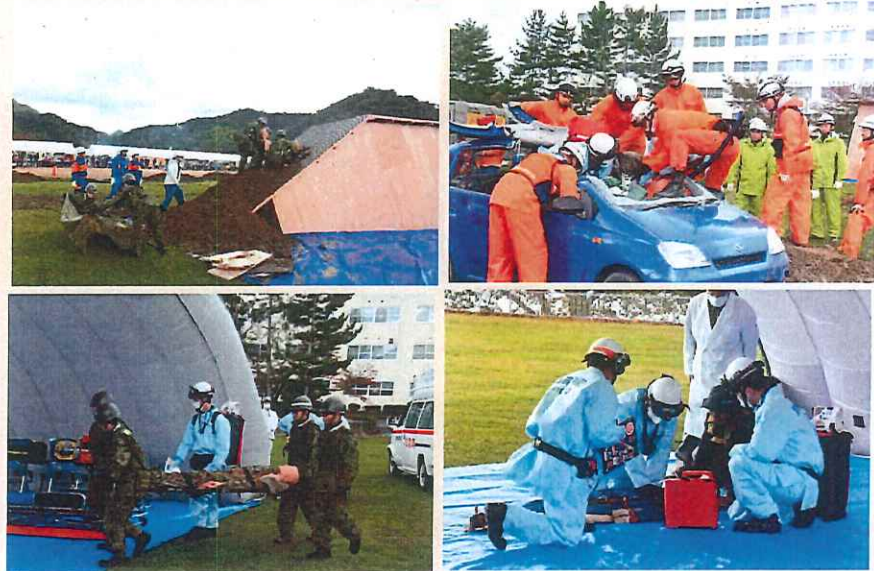
このほか、令和6年1月21日(日)に開催する地域医療シンポジウムの告知内容や当日の進行等について協議を行った。

### 3. 主な意見(要旨)

- ・市が災害対策本部を設置すれば、自動的に各病院の災害対策本部が設置されるわけではないので、市から病院に対して災害対策本部の設置を要請することも覚書に記載すべきと考える。
- ・相当数の傷病者・負傷者が出た場合や、病院でも受け入れられなくなった場合に、どのように患者を収容するのか常に検討していく必要がある。
- ・定期的に災害時を想定した訓練も必要である。
- ・災害時における通信手段の確立も重要。
- ・市災害対策本部の役割(機能)として、医師の視点も必要と考える。
- ・自然災害だけでなく、原子力災害の発生時に市民はどこへ避難するのかなどについても把握し、啓蒙していく必要がある。

#### 【舞鶴市総合防災訓練の様子】

※令和5年10月29日(日)於舞鶴教育隊



## 第4回持続可能な地域医療を考える会 要録

【日時】令和5年12月15日(金) 19:30~21:10

【場所】市役所別館5階 中会議室

【出席者】舞鶴医療センター：法里院長、矢野事務部長  
舞鶴共済病院：沖原病院長、福田事務部長  
舞鶴赤十字病院：片山院長、西田事務部長  
市立舞鶴市民病院：井上病院長、坂根管理部長  
舞鶴医師会：隅山会長、藤崎事務長  
舞鶴市：鴨田市長、福田副市長、馬場健康・子ども部長  
事務局：霜山室長、高嶋課長、谷田係長、水嶋主査、東山

### 【内容】

#### 1 開会

#### 2 市長挨拶（要旨）

本日は、前回の考える会以降の報告をさせていただいた後に、協議事項として災害時医療と、1月21日に行う地域医療シンポジウム、この2件について協議をいただくこととしています。

まず、協議事項の1つ目の災害時医療については、この考える会においても何度も話題に上がっていました。災害時の対応として、関係機関が速やかに連携し、また医療救護活動が実施できるよう連携体制を構築しておくことが必要であったと考えますし、平時から各種訓練等を通じて災害への備えに加えて、顔の見える関係の維持や構築に努めることが重要であると考えています。本日は、これまで寄せていただいたご意見も踏まえて災害時における連携体制について、ご意見いただきたいと考えています。

協議事項の2つ目、地域医療シンポジウムにつきましては、来月1月21日の日曜日に開催する運びとなりました。当日はこの場におられる先生方に加えて、京都府立医科大学からも先生を送っていただける予定です。

詳しくは、この後議論いたしますが、何よりも今回のシンポジウムは、市民の皆様が現状の地域医療がどのような状況にあるのかをお伝えし、地域医療に関する理解を深めていただく機会にしたいと考えています。

#### 3. 概要

第4回持続可能な地域医療を考える会については、前回以降の諸報告を行ったのち、災害時医療について意見交換を行った。

災害時医療については、災害時に舞鶴市や関係機関が速やかに連携し、疾病者や負傷者の救護、受け入れに繋げていくため、地域の被災状況の共有はもとより、多数の疾病者、負傷者が生じた場合の受け入れ方法、さらに病院で診られなくなった

場合の病院間連携など、連携体制の充実・強化を図っていくこととした。

この間持続可能な地域医療を考える会を通じて、市長、公的病院長、医師会長が率直な意見交換を行い、顔の見える関係が構築できたからこそ、将来、事務方も含めて人が変わっても、強固な連携体制を維持・確保できる仕組みとして、災害時等における対応に関する覚書の締結に向け調整を進めることとした。

このほか、令和6年1月21日（日）に開催する地域医療シンポジウムの告知内容や当日の進行等について協議を行った。

## 5. 主な意見（要旨）

### ○災害時医療に関するもの

- ・ 市が災害対策本部を設置すれば、自動的に各病院の災害対策本部が設置されるわけではないので、市から病院に対して災害対策本部の設置を要請することも覚書に記載すべきと考える。
- ・ 現地で相当数の傷病者・負傷者が出た場合や、病院でも受け入れられなくなった場合に、重症度や診療科等も含めて、どのように患者を収容するのかは常に検討していく必要がある。
- ・ 定期的に災害時を想定した訓練も必要である。
- ・ 災害時における通信手段の確立も重要。
- ・ 市災害対策本部の役割（機能）として、医師の視点も必要と考える。
- ・ 自然災害だけでなく、原子力災害の発生時に市民はどこへ避難するのかなどについても把握し、啓蒙していく必要がある。

以上